

# 令和5年度 自己評価及び学校関係者評価報告書

学校法人 愛基学園 札幌円山幼稚園

## 1、教育目標

幼児期に豊かな人間性の芽生えを育てるために設定する本園の教育目標は下記の6つある。

- 健康で明るい子ども
- 生き生きとして、やる気のある子ども
- 協調性のある子ども
- 根気よく、集中力のある子ども
- 思いやりのある子ども
- 創造性のある子ども

## 2、本園の教育方針

本園は、以下の教育方針に沿って、園運営を行っている。

- 教職員一人ひとりが、園児の豊かな成長を日々願いながら、自主性・協調性・創造性、思いやりの心を育むために教育活動を行う。
- 全ての教職員が一つのチームとして協力し合いながら、一人ひとりの幼児の個性を尊重する指導を行う。
- 保護者の方々や地域の皆さまに信頼される幼稚園づくりに努める。

## 3、評価項目の達成及び自己評価

評価項目	取組み状況と改善のための方策
幼児の思いや考えに共感しながら 幼児と一緒に活動する。	教員は、一人ひとりの幼児の思いや興味関心に注意深く耳を傾け寄り添いながら、教育活動を進めるよう努めている。
幼児が理解しやすいような正しい 美しい言葉を使う。	本園の教員は、幼児期に「美しい言葉」に多く触れることの大切さを認識しているため、幼児の前で、そして、教職員同士で話す時に、丁寧で、正しい日本語を話すように常日頃から心がけている。  実際、本園の在園児や卒園児の保護者の方々から、「円山幼稚園の先生方は、ゆっくりと丁寧に話されますね」といったお褒めの言葉をいただくことが多い。この状況をぜひ継続していきたい。
園児の状況などについて教職員 同士で話し合い、共通理解を図る ように、日常的に心がける。	教職員会議、日々の教員同士の意見交換の場、そして、朝礼や終礼などを通して、園に通う全ての幼児についての共通理解や情報共有を図り、園全体で常に適切な対応を取れるように最大限努めている。

評価項目	取組み状況と改善のための方策
<p>教職員全員で一つのチームであることを自覚する。</p>	<p>担任（副担任）としてどのクラスを担当しているかに関わらず、園内の全ての教職員が、必要な場面で、幼児に温かい言葉がけや適切な対応ができるように常日頃から園全体で心がけている。</p> <p>そして、新しく着任する先生方は、本園教職員のチームワークの良さや仲の良さに感心することが多い。こういった雰囲気在今后とも大切にしていきたい。</p>
<p>園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかす。</p>	<p>幼児期という多感な時期に自然や四季折々の美しさに触れることは、非常に大切である。このことを、本園の教員はよく理解しているため、園庭、円山公園、そして、盤溪山にある本園付属の自然体験学習園「おひさま広場」に行く機会を多く作り、幼児が楽しく自然に触れることができるように努めている。</p> <p>上記の「おひさま広場」においては、野菜栽培、野遊び、虫や草花などの自然観察といった貴重な経験をすることができる。そのため、これからも行く機会を増やしていきたい。</p>
<p>異年齢の幼児が交流できるような環境設定をおこなう。</p>	<p>登園時間の似通った（異年齢の）きょうだいクラスの活動、そして、預かり保育を通して、年齢の異なる幼児が交流することで、例えば、年長児が年少児のお世話をして優しい気持ちを育んだり、年中児が年長児に憧れて新しいことに挑戦する勇気をもったり、といった生き生きとした交流が日々生まれている。</p> <p>子どもたちの思いやりの心を育てるためにもこれからも異年齢交流を促していきたい。</p>
<p>園内に危険な箇所がないか、幼児が危険な遊び方をしていないかなどについて、常に配慮し、もしも危険が予測される場合は、安全な遊び方について幼児と一緒に考え指導する。</p>	<p>幼児が安全に遊べるように、園内外の活動において、危険を回避するための具体的な方法や交通安全の大切さについて指導している。</p> <p>活動場所の安全を最大限に意識した環境設定ができるように、今後とも細心の注意を払い取り組んでいきたい。</p>
<p>保護者の方からの相談や要望に丁寧に耳を傾け対応するように心がける。</p>	<p>保護者の方々のご心配、様々なご意見・ご要望に注意深く耳を傾け、どんな場面でも誠意をもって対応するように努めている。</p>
<p>園だより、クラスだより、個人懇談、参観日、連絡帳、ホームページなどを通して、幼稚園の情報を発信する。</p>	<p>クラスだよりや毎月の園だより、個人懇談や参観日、そして、本園ホームページにおいて、日々の保育の様子、行事における子どもたちの可愛いエピソードや言葉などについてお伝えし、情報発信をしている。アンケートを通して、この点について肯定的に評価していただくことが多い。これからも、このような情報発信を積極的にしていきたい。</p>

#### 4、 今後の課題

課題	今後の取り組み方法
地域交流の活性化や積極的な行事運営の必要性	<p>コロナ禍では、保護者の方々の行事へのご参加や、地域の他の施設・団体・学校などとの交流が、やむを得ず制限されていた。</p> <p>令和5年度からは、保護者の参加人数を少しずつ元に戻したり、全園児が集まれる機会を増やしたりするように努めている。さらに、コロナ禍で3年間中止されていた小学校交流については、令和5年度からようやく再開できた。</p> <p>今後は、さらなる協力体制を模索しながら、地域に根差した交流活動を再開していけるように努めていきたい。</p>

#### 5、 学校関係者評価委員会の総合的評価と意見

結果	理由
A	<p>本園では、子どもたちが思いやりの心を育むことができるように、教育活動や行事が具体的に計画・実行されており、心身ともに園児の豊かな成長を見守る雰囲気がある点が高く評価できる。</p> <p>また、様々な教育活動の中で、教員は、子ども一人ひとりの個性を大切にしながら、子どもの自主性・協調性・創造性を育むことができるように、日々模索し実行している。</p> <p>さらに、教職員は一つのチームとして、協力したり助言し合ったりしながら、子どもたちへの指導に取り組む姿勢が随所に見られる。</p> <p>そして、教職員一人ひとりが、日常的な自己点検や自己評価に積極的に取り組んでいる。</p> <p>これからも、教員自ら、その指導方法や教育内容などを日々ふりかえり、さらに充実した教育実践ができるように日々努力していくことを期待している。</p>